

地域おこし協力隊

厚真町で活動している地域おこし協力隊をご紹介します！

現在活動している協力隊〈7月末現在〉

農業▷8人 教育魅力化▷2人 観光▷1人
起業型▷8人 協働型▷6人 スポーツ▷1人

起業型協力隊

わたなべ ひでと
渡辺 英人さん

着任：令和7年6月（1年目）
出身：三笠市



—これまでの経歴について教えてください。

教員になることを夢見て大学に進学しました。家庭の事情から新聞奨学生制度を利用し、学費や生活費を自分で稼ぎながら通っていました。やがて、教員以外にも、人の人生を導く仕事があると気づきました。新聞販売の世界でも、自分と同じように学費に悩む学生を支えられると知り、その魅力に引き寄せられてそのまま就職しました。やがて業界の変化を感じ、地元でガス会社に転職し、さらに豆腐屋やパン屋の経営に携わる中で、「食には人を喜ばせる力がある」と気づき、商品開発やブランディングの仕事にのめり込むようになりました。そして、健康や地域の価値を次世代に残したいという思いから、仲間と共にクラフトビネガーの会社を立ち上げ、主に商品開発や販路開拓を担ってきました。

—厚真町に来たきっかけは？

豆腐やクラフトビネガーを通して「地域の産物の魅力をもっと伝えたい」と思うようになり、北海道の中でも

特にハスカップに魅力を感じています。厚真町にはハスカップの生産者がいて、すでにブランディングに挑戦している人たちがいたので、ここで自分の経験を生かして一緒に地域ブランドを育てたいと考えたことがきっかけです。

—ローカルベンチャースクールに参加した感想は？

これまでは多くの人の相談にのる立場でしたが、逆に自分の思いやビジョンを見つめ直す機会になりました。ローカルベンチャースクールではいろいろな人の思いを聞きつつ、自分の思いを知ることができました。制度ありきではなく、仲間と共に挑戦したいという思いを持てたことが大きな収穫です。

—今後の目標を教えてください。

厚真のハスカップをはじめとする地域の産品を生かし、ブランディングや商品開発を通して、町の文化や産業を次の世代に残すことがしたいです。子どもたちが小さな仕事を体験し、お小遣いが得られるような場づくりも構想中です。自分の好きなことを無理なく、仲間と楽しみながら続けていけるような働き方を厚真町で実現していきたいですね。

厚真町とみなさんの関係をつなぐウェブサイト「あつまのおと」では、地域おこし協力隊の情報はじめ、町の「ヒト・コト・モノ」、「挑戦と出会い」の情報を発信しています。

